

# バレイショ

## I. 作型別栽培法

### 1. 作型と主な作業

#### 1) 作型の分類

- ・冬作 植付:12月、収穫:4月～5月中旬
- ・春作 植付:2月、収穫:6月
- ・秋作 植付:8月下旬～9月下旬、収穫:12月

#### 2) 作型別主な作業

月 作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冬作 (マルチ栽培)	○	○	—	■								○
		マルチ(透明)被覆		収穫								
春作 (マルチ栽培)		○	○	—		■						
		植付	マルチ(黒)被覆			収穫						
秋作 (露地栽培)								○	○	△	—	■
								植付	培土			収穫

○植付    ○ マルチ    △培土    ■収穫

### 2. 主な品種 冬作:メークイン 春作:メークイン・デジマ・ニシユタカ・春あかり 秋作:デジマ

「メークイン」・・・中生品種。塊茎は長卵形で目が浅く、煮崩れしにくい。低温貯蔵で甘みが増す。イモの粒揃いがやや悪く、緑化しやすい。

「デジマ」・・・中晩生品種。塊茎は扁球形で、肉質はやや粉質。イモ数が多く多収。春作では二次成長や裂塊が発生しやすい。

「ニシユタカ」・・・中晩生品種。塊茎は扁球形で、イモ数がやや少ないが粒大。多収で早期肥大性に優れるが、青枯れ病やそうか病に弱い。

「春あかり」・・・中早生品種。塊茎は球形で、目が浅い。粒はやや小さいが多収。良食味でそうか病に強い。詳細は佐賀県上場営農センターH22年成果情報「上場地域に適した多収性で外観が優れるバレイショの有望品種‘春あかり’」参照(県ホームページ掲載)。

(参考)

「インカのひとみ」・・・早生品種。塊茎は倒卵形で、皮色が赤く目の周りが黄色である。良食味であるが、粒が小さく収量がやや低い。詳細は佐賀県上場営農センターH22年成果情報「上場地域に適した良食味のバレイショ有望品種‘インカのひとみ’」参照(県ホームページ掲載)。

### 3. 栽培方法

#### 1) 種子準備

##### (1) 種イモ

10a当たり種子量 冬作:180~200kg 秋作:200~250kg 春作:180~200kg

種子を切断する場合は1個重が30~40gになるように行う(目安:M玉の2つ切り)。ただし、秋作は腐敗の原因となるためできるだけ切断しない丸イモを使用した方が良い。種イモ切断は植付けの5~7日前に行い、切断面が十分にコルク化したものを植付ける。種イモの切断は一部(5mm程度)を完全に切り離さないでおくと、切断面のコルク化が促され腐敗が少なくなる。切り離しは植付け当日に行う。

##### (2) 緑化处理

日光あるいは散光を3~4週間照射し、長さが3~5mmの太く充実した芽を出させる。均一に照射するため、少なくとも一週間間隔で上下の向きを変える。25℃以上の連続高温が予想される場合は芽の徒長(5mm以上の軟白状態の芽は種子消毒の際に焼けてしまう可能生がある)を防ぐため、換気等に十分注意する。

##### (3) 種子消毒

そうか病等の発生を防ぐため、種子消毒は必ず実施する。薬剤の詳細は5)病虫害防除を参照する。

#### 2) 冬春作管理

##### (1) マルチ被覆

- ・萌芽前に必ず実施する。
- ・土壌が乾燥していると萌芽が不揃いになり、さらにそうか病の発生を助長する場合もあるため、マルチ被覆は降雨後の土壌水分が充分にある状態で実施する。
- ・冬作では地温を確保するため透明マルチを使用する。春作では地温が高くなり、腐敗の原因となるため黒マルチを使用して地温上昇を抑制する。

##### (2) 植付

- ・植付方法:5cm程度の深さに、種イモの切り口を下にして植付ける。
- ・栽植様式:畦幅:60~80cm、株間:25~30cm、10a当たり5,500~6,600株

##### (3) 芽出し

- ・萌芽と同時にマルチを切開する。遅れると芽焼けの原因となる。
- ・萌芽後は一株に強い芽が1~2本になるように、余分な芽をかぎ取る。

##### (4) 機械定植(参考)

- ・局所施肥による減肥やマルチ後の半自動野菜定植機による定植が可能である。詳細は佐賀県上場営農センターH14年成果情報「春作バレイシヨの畦立てマルチ同時局所施肥試作機と減肥栽培」参照(県ホームページ掲載)。

#### 3) 秋作管理

##### (1) 植付

定植時が高温のため、種イモの切断は腐敗の原因となる。そのためできるだけ切断しない丸イモを利用する。平均気温25℃以上の高温時の植付は青枯病の発生を助長するため、25℃以下となる8月下旬~9月上旬に行う。なお、種イモの腐敗を防ぐため、晴天の日中は避け、朝夕の温度の低い時間帯に行う。

- ・植付方法:5cm程度の深さに、種イモの切り口を下にして植付ける。
- ・栽植様式:畦幅:60~80cm、株間:25~30cm、10a当たり5,500~6,600株

##### (2) 土寄せ

・土寄せは萌芽揃い後と開花前(10月中旬)の計2回行う。

#### 4) 施肥

##### (1) 冬春作

・施肥は全量元肥とし、全層施肥または種イモの覆土(5cm程度)の上に行う。

表1 冬春作バレイシヨの10a当たり施肥基準

肥料名	施肥量 (kg)	成分量(kg)		
		N	P	K
堆肥	2,000			
上場夢台地	115	15	19	19
苦土重焼燐	30		11	

注) 完熟堆肥を用いる。

土壌診断に基づき適性に施肥する。好適pH: 5.0~5.5.

##### (2) 秋作

・元肥は全層施肥または種イモの覆土(5cm程度)の上に施肥する。

・追肥は萌芽揃いからイモの肥大開始期(萌芽後約3週間後)までの間に行い、土寄せ作業と合わせて実施する。

表2 秋作バレイシヨの10a当たり施肥基準

肥料名	施肥量 (kg)	成分量(kg)		
		N	P	K
堆肥	2,000			
上場夢台地	100	13	16	16
苦土重焼燐	20		7	
BB追肥454号	40	6	2	6

注) 完熟堆肥を用いる。

土壌診断に基づき適性に施肥する。好適pH: 5.0~5.5.

#### 5) 病虫害防除

病虫害名	薬剤名	処理量・濃度	処理方法
そうか病	クロールピクリン	20リットル	土壌注入
	銅ストマイ水和剤	100倍	10秒間種イモ浸漬処理
	アグリマイシン-100	40~100倍	5~10秒間種イモ浸漬処理
疫病	フロンサイド水和剤	1,000~2,000倍	茎葉散布
	ホライズンドライフロアブル	1,000~2,500倍	茎葉散布
アブラムシ	ダイシストン粒剤	4kg/10a	植穴散布又は播溝散布
	ジメトエート乳剤	1,000~2,000倍	茎葉散布
	オルトラン水和剤	1,000~1,500倍	〃
	オルトラン粒剤	3~6kg/10a	作条散布
ジャガイモガ	オルトラン水和剤	1,000~1,500倍	茎葉散布
	パダンSG水和剤	1,500倍	〃

## 6) 収穫

- 茎葉が10%程度黄化したら収穫する。皮むけしやすいので、丁寧に掘り取る。
- 収穫は4～5日晴天が続いた後収穫すると貯蔵性が高く、土も付きにくい。
- 秋作で降霜後の茎葉が枯れてからの収穫はイモの腐敗を助長するため、その前に収穫する。

## 7) 収益性

### 農家所得試算

作型	栽培面積 (a)	収量 (kg)	秀品率 (%)	単価 (円/kg)	販売額 (千円)	経営費 (千円)	所得 (千円)
冬作	10	2,700	95	220	594	286	308
春作	10	3,200	94	200	640	299	341
秋作	10	3,200	94	150	480	256	224